

「お寺の薫り」を探究

京大研究員、龍大と協力



④仏教や生態学の専門家らが総合討論を行った
⑤水野久代研究員



京都大学人と社会の未来研究院の水野久代研究員らが進める「お寺の薫りプロジェクト」を巡る2回目の研究発表が10月22日、同大学稲盛財団記念館で行われた。「お寺×薫り×サイエンス2」生態学と仏教から考えるかおりのコミュニケーション」と題し、プロジェクトの報告や、植物の香りと生物の関係についての講演があった。

(松井里歩)

プロジェクトは水野研究員を中心に、京都大学と龍谷大学の研究者らが共同で進めている。お寺の香りの成分を分析し、人間にどのような影響を与えているのかを知ることで、ウエルビーイング用語解説Ⅱなどへの貢献を視野に入れている。

報告で水野研究員は、龍谷大学の3学舎にある仏式礼拝堂の香り成分を分析したところ、法要時と平常時に加えて季節によっても結果が異なっていたと明らかにした。堂内の香りがお香

以外の影響も受けているとみられ、引き続き複数のお寺で香りのサンプルを抽出しているという。

講演では、京大大学生態

学研究センターの高林純示名誉教授が登壇し、植物の香りがさまざまな生き物のコミュニケーションを媒介しているという研究について解説した。

て解説した。

幼虫に食べられた葉っぱが食べられなかった葉っぱと違うにおいを発し、幼虫の種類によってもにおいが異なることから、植物が幼

虫の唾液成分を識別できているのではないかと仮説を紹介した。

総合討論では、京都大学

人と社会の未来研究院の亀山隆彦特定准教授が「仏典

では、法華経を携えて修行をすると感覚が敏感になり、天や菩薩のにおいもかき分けられるとの記述がある」と述べ、研究の広がり

に期待を示した。